

第11回： 化学物質汚染への新しい視点

開催日： 1987年7月2日～3日 / 会場： 「自動車会館」東京都

開催趣旨： 最近では、トリブチルスズ化合物やトリクロロエチレンなどの化学物質、あるいは廃棄物による水環境汚染の問題が頻繁に報道されています。今日、日本の産業構造は大きく変わりつつあり、それに伴って、環境汚染の様相も以前とは変わってきています。最近問題となっているいくつかの化学物質による汚染について、その現状と課題を述べるとともに、化学物質審査規正法やマルポール条約などの化学物質汚染への新しい対策、ならびにハザードアセスメント、クロスメディアアプローチなどの国際的な新しい視点について解説するよう予定いたしております。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 産業構造の変化と環境保全（佐藤雄也／環境庁）
- トリブチルスズ化合物による環境汚染（荒井真一／環境庁）
- 地下水汚染の評価と対策（眞柄泰基／国公衛院）
- 化学物質のリスクアセスメント（池田正之／東北大）
- 先端技術産業における公害対策の実例（多喜田圭二／通産省）
- 海洋汚染とマルポール条約（小野川和延／環境庁）
- 化審法の改正要点について（長野健一／厚生省）
- 化学物質対策の国際的動向（渡辺和夫／環境庁）
- 環境保全と廃棄物の処理・処分（後藤典弘／国公害研）